

神 戈 陵 同 窓 會 報



校訓

自 立 ・ 端 正 ・ 積 極 ・ 公 徳

題字直筆
堂 菌 まゆみ

発 行
鹿 児 島 県 立 川 辺 高 等 学 校
本 部 同 窓 会

〒 897-0221
南 九 州 市 川 辺 町 田 部 田 4150
TEL 0993-56-1151
FAX 0993-56-1152
県 立 川 辺 高 等 学 校



同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝で過ごしのこととお慶び申し上げます。

日頃から同窓会活動にご支援とご協力を賜り御礼申し上げます。

さて、今年の各地区同窓会の開催状況の詳細は会報誌に掲載してありますが、東京同窓会が五月十日、南九州市職員等神戈陵会が六月二十日、南さつま地区神戈陵会が七月十一日、本部同窓会は八月九日開催しました。五月十日の東京同窓会総会には都合により参加できませんでしたが、伊地知校長先生から「皆様がお元気で活気あふれる総会・懇親会でも抽選会が大いに盛り上がった。」と聞いて参加出来なかったことがとても残念でした。他のどの会場も毎年のことながら非常に盛り上がり楽しい時間を過ごしていました。また、十月十八日の福岡同窓会では佐多会長さんのお計ら



同窓会会長
高 田 政 雄

川 辺 高 校 同 窓 生 の 皆 様 へ

いで、川辺高校創立百二十五周年特別企画として鹿児島県出身で落語家の桂竹丸師匠による講演落語「ホテルの母」を聞くことが出来てとても有意義な時間を過ごしました。

このように各地区で同窓会が開催されることよって年代を超えた会員の交流と母校の現状を理解してもらおうと共に、参加された皆様からのご意見を母校の活性化に繋げていきたいと思いますので今後も開催していただきますようお願いいたします。なお、現在休止中の関西地区や鹿児島地区同窓会が再開できることを願っています。

学校行事では六月五日に実施した神戈陵塾は東京同窓会の皇宮警察に勤務している遠見貴弘さんと地元同窓会の菊野病院に勤務している理学療法士の佐多克友さんの二人を講師にお招きして実施されました。生徒達は真剣に聞き入り多くの質問をしていました。進路意識の高揚とキャリア教育の充実の一助になったと思います。

ところで、昨年度も本部同窓会の運営費確保のため南九州市内在住の同窓生や各地区同窓会に参加された方々に「賛助金の

お願い」を実施してきました。その結果八十五名のご協力があり、本会報記載の決算書のおり目標額五十万円に対して四十二万六千七百十六円の決算となりました。ご協力してくださいました皆様方に心から感謝申し上げます。この取り組みは毎年度実施する施策ですので三月中には「賛助金のお願い」の趣意書と同窓会報を送付する予定です。お手元に届きましたら是非二千元以上の賛助金のご協力をよろしく願います。

学校の現状で例年苦慮しているのが入学者数の課題ですが、昨年度の卒業生は五十九名でしたので近年の状況から何名入学して来るか危惧していたところ、先生方や生徒達の努力により五十七名の入学人数でほとと胸を撫でおろしたところ。現在、一年生五十八名、二年生三十二名、三年生三十名の合計百二十名です。来年度の募集定員八十名の獲得に向けて学校・PTA・同窓会が一体となって各種施策を展開すると共に、生徒達もSNSを活用した情報発信や川辺二日市、祇園祭、磨崖仏祭等の地域行事にも積極的に参加し、地域に対して川辺高校の見える化に取り組んでいます。

また、なぎなた部が八月三日の全国高校総体の団体戦では鹿児島県公立高校で史上初の三位入賞を成し遂げました。更に滋

賀県で開催された国民スポーツ大会では、なぎなた少年女子、試合競技において五位入賞を果たしました。このように素晴らしい成績を挙げたことで南日本新聞にも掲載され「なぎなた川辺」をアピール出来たと思います。

政府は二千二十六年から、私立高校の就学支援金を四十五万七千円まで拡充する方針で、授業料が実質無料化となり私立を選択肢に入れる受験生も少なくないと思われま。この事に対応するため地元中学校との中

高連絡会等あらゆる機会を通じて一人でも多くの中学生が川辺高校に入学してもらおうよう取り組んでいます。

このような中で生徒の皆さんはお互い切磋琢磨して自分の将来に向けて自己実現に取り組み実績を残しています。このように頑張っている生徒達のためにも同窓会としては母校教育の発展に引き続き支援を充実していきたいと思いますので、今後とも同窓会の運営にご支援とご協力をお願い申し上げます。

近況報告



校長 伊地知 健三

川辺高校同窓会の皆様におかれましては、ますます御健勝にて御活躍のことと拝察いたします。平素より母校の発展のために物心両面にわたる多大な御支援と御協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、川辺高校は創立一二五周年を迎えました。今年度の新入生は五十七名で二年ぶ



りの二クラスでのスタートを切りました。昨年度入学者から二十七名増えたことを非常にうれしく思っています。私は昨年四月に着任してから、箱物が変わらないなら生徒の日常を変えることで地元へのアピールを試みようと思っていました。四月のはじめにそのことを生徒会役員に話し、「自治の学校づくり」に取り組んでみないかと呼びかけました。まずは校則を時代に合ったものに変えよう。次は各種学校行事を生徒主体の運営でやっていこうと投げかけ

ました。生徒たちは校則の見直しのためにこの一年をかけて素案を作り、生徒総会に提案して新しいものにしました。ポイントには服装や髪型などの細かい規則を取り払い、校訓の「端正」を心がける表現に変更しました。

また、文化祭や中学生の一日体験入学などを生徒会が中心になって生徒が企画・運営し、主体的に取り組む形で実施してくれました。積極的に生き生きと行事に取り組みむ高生の姿が、地元の中学生にも伝わっていき、入学者の増につなげたのではないかと推察しています。

一般に、校舎を新築して制服を新しくすれば希望者数は増えると言われています。昭和三十八年に建築された本校の校舎本館の改築はまだ計画すらありません。また、多くの女子の生徒は現在の制服に深い愛着を持っています。建物や制服が変わらないなら、学校生活を前向きで楽しいものにしようと、真摯に取り組んだ生徒たちのありようが地元の人たちにも理解されつつあるのではないのでしょうか。

とはいえ児童・生徒数は、今後も右肩下がりで減少して

いきます。なかでも南薩地区の児童・生徒数は、七年後には現在の八十八%程度に減少することが分かっています。子どもの数が減っていく現実と向き合いながら、本校の歴史と伝統に支えられた良さをさらに地域に発信する必要がある、生徒が自主的・自発的に校内外の様々なイベントに関わって情報発信を行うことに取り組んでいます。

令和七年三月卒業生五十九名の進路状況については、次のとおりです。

- ◎国立大学 六名合格
 - 山口大学、鹿児島大学四名
 - 鹿屋体育大学
- ◎公立大学 五名合格
 - 都留文科大学、島根県立大学、下関市立大学、宮崎県立看護大学、名桜大学
- ◎私立大学 五十四名合格
 - 拓殖大学、麻布大学、神奈川工科大学、広島国際大学、九州産業大学六名 九州情報大学、久留米大学五名、久留米工業大学二名、西南女学院大学、西日本工業大学、福岡大学二名、福岡工業大学四名、長崎国際大学、九州看護福祉大学二名、熊本学園大学、熊本保健科学大学、別府大学二名、九州

医療科学大学二名、鹿児島国際大学八名、鹿児島純心大学五名、志學館大学四名、第一工科大学

◎国立短大二名合格

鹿児島県立短大二名

◎私立短大 三名合格

中村学園大学短大部、鹿児島純心女子短大、鹿児島女子短大

◎専門学校 十四名合格

医療系七名、看護・保育系三名、その他四名

◎公務員就職 二名

枕崎市消防本部

鹿児島県警察本部

卒業生総数は五十九名と昨年度よりは多いですが、卒業生の約十九%が国立短大に進学しています。

今年度卒業予定の三年生も頑張っています。吉報をお待ちください。

学校行事の開催にも触れたいと思います。

本校の伝統行事である「神戈陵塾」は第二十六回を数え、遠見貴弘氏（平十一卒・皇宮警察官）、佐多克友氏（平二十五卒・理学療法士）のOB二名を講師に迎えて六月五日（木）に本校体育館で実施しました。その二日後にmarukawaホール（旧川辺町

文化会館）で「神戈陵祭文化祭」を実施しました。児玉晃一PTA会長のご協力のもと、キッチンカー六台、マルシェ九店の出店もあり、多くの地元の方々も会場に足を運んでくださって賑わいを創出することができました。

「神戈陵祭体育祭」は九月第一週の土曜日に行いました。残暑の残る暑い日でしたが、熱中症でリタイアする生徒も少なく、元気に日程を終了しました。伝統の種目「川辺高校生の一日」も健在です。十月下旬には第二十六回三十三キロ遠行を実施しました。現在は吹上浜海浜公園までを往復するコースで実施しておりますが、参加した生徒はほぼ時間内にゴールしました。

部活動の状況にも触れたいと思います。少ない人数ながら、各部活動も精力的に活動しています。なぎなた部は今年は大躍進でした。九州大会では試合競技の部個人で二年生の東さんが優勝、演技競技の部では菊永・栢川さんの三年生ペアが三位入賞を果たしました。また、全国高校総体では試合競技団体の部で三位入賞、国体では五位入賞と素晴らしい成績を挙げました。

文化系部活動の活躍も川辺高校の生徒募集に貢献してくれています。サイエンス部は近隣の小学校・中学校に出向いて理科の実験を中心とした出前授業を行い、好評を博しています。美術部は商工会から依頼を受けて地元の「磨崖仏祭り」のポロシャツをデザインし、祭りの盛り上げに役割を果たしました。祭り当日は二十名近くの本校生がボランティアに参加してくれました。書道部は第六十三回南日本七夕書道展において、三年生の鶴田さんが鹿児島市議会議長賞を、同じく三年生の白澤さんが県書道会賞を受賞しました。併せて学校賞も受賞しました。

音楽部は県吹奏楽コンクールに薩南工業高校と合同で出場し、見事金賞を受賞しました。八月には香川県で開催された全国高等学校総合文化祭で南薩合同バンドの一員として出場を果たしました。

今年には戦後八十年というところで、南九州市では青少年海外派遣ハワイ戦艦ミズーリ記念館平和交流事業が行われ、一年生の児玉杏さんが参加しました。川辺高校は現在全校生徒百

二十名在籍の小規模校です。一学年の定員は八十名ですが、二年生、三年生は在籍数が一学級分に届いておりません。生徒数の減少にいかに対応するかが今後最大の課題です。これには通学バスの平日帰宅時間帯及び土、日、祝日の正午の時間帯の減便も大きく影響していますが、生徒の気質の変化も大いにあるように感じています。バスの減便に伴って、本校でもバイクの免許取得と通学距離等の制限を撤廃しました。しかし、生徒たちは以前のように積極的にバイクに乗りたがりません。

バスの中でスマホを見ながら過ごすことを望んでいるやに聞きます。当然保護者もできず、欲しいと思っただけで、バスの利便性の良い学校やスクールバスで通える学校を選ぶ傾向にあることも事実です。バスの問題もさることながら、創立百二十五年の本校が持つ、歴史や伝統に培われた校風がもたらす川辺高校の良さは、青年期の子どもたちにはなかなか感じにくいものです。同窓会員の皆様が感じておられるように、母校の良さや素晴らしいさを実感できるよ

うになるのは、社会に出てからです。そのことを思うとき、学校側が伝統校である本校の良さを中学生にわかるように伝えていかないといけないと思っています。

このことを踏まえて、広報活動により一層力を入れることを具体的に取り組みようとしていきます。従来の公式ブログに加えて、生徒主体の情報発信を行う公式インスタグラムを開設しています。また、中学校訪問や学校説明会の回数を増やして地元中学校との連携強化を図っています。今年度のこれらの活動には、卓越した映像技術を持つ田尻さん（南九州市地域おこし協力隊員）に積極的なご協力と助言をいただいているところで

す。伝統に支えられた本校の良さを、広く地域に伝えることに取り組みながら、入学者を一人でも多く獲得する活動を続けて参りますので、これまでと同様に深い御理解と御支援をお願いいたします。併せて、同窓会のますますの御発展、同窓会員の皆様の御健康と御多幸を祈念申し上げます。



第四十九回 東京同窓会総会・懇親会



昭和四十一年卒 森 山 昭 利

第四十九回川辺高校東京同窓会の総会・懇親会は、令和七年五月十日、東京都新宿区のホテルグランドヒル市ヶ谷で開催されました。あいにくの雨模様ながら、参加者総数は、前年とほぼ同じの約七十名、旧交を温めました。

来賓に、伊地知健三川辺高校校長のほか、阿久根學薩南工業高校同窓会関東支部、前原東二関東知覧会、内村哲也関東さつま川辺会の各会長のご出席をいただきました。

◆総会◆冒頭、物故者への黙祷を捧げた後、「足元が悪い中で、昨年と同じ七十名の御出席を得て、安堵しています。来年の第五十回総会・懇親会に向けて努力します」との森山会長の挨拶があり、総会の議事進行へ。第一号議案「会務報告」、第二号議案「会計報告」、第三号議案「会計監査報告」、第四号議案「49〜50期役員改選の件」を審議し、いずれも原案通り、承認されまし

た。(役員改選は、一部のみで、正副会長は留任)

◆講演会◆なお、総会に先立ち、今村茂行による「酸素について」と題する講演が行われました。今村さんは、森



懇親会・来賓席で。着席の左端が伊地知健三川辺高校校長、右隣が阿久根學薩南工業高校同窓会関東支部会長、後列左端が森山昭利東京同窓会会長、右端が内村哲也関東さつま川辺会会長

山会長、峯苦稔三及び橋本起世子両副会長と同期(昭和四十一年卒)の同窓生で、酸素研究に長く取り組んでいる薬学博士。「酸素とは何か」「酸素は生体内でどのようにして作られるか」「酸素は地球上にいつ誕生したか」「飲酒と酵素」などについて知見を披露、参加者の知的好奇心に応えてくれました。

◆懇親会◆懇親会は、阿久

根學薩南工業高校同窓会関東支部会長の挨拶および乾杯の音頭が始まりました。

宴会は、ある席では和やかに、ある席では賑やかに、お酒が進むほどに話題の尽きない光景が見られました。会の盛り上げに一役かってくれたのは、特別参加してくれた令和七年新卒の茅野勇治君と立石瑛士君の二人。大先輩たちに囲まれて、しばらくは緊張気味だったものの、時間を経ずして様々な席で、歓談に加わってくれました。

出席者全員に「ハズレ」のない抽選会も、大いに盛り上がりました。当選した「さつ

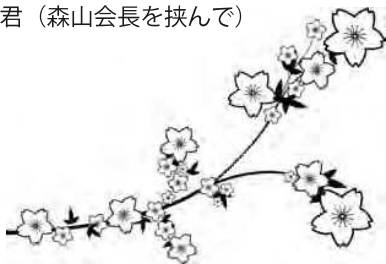


特別参加してくれた令和7年新卒の茅野勇治君と立石瑛士君(森山会長を挟んで)

ま揚げ」や「かるかん」を自席で開けてみんなに振る舞う姿も。

宴も終盤。校歌斉唱の後、昨年も好評だった長老・昭和三十二年卒業の松田哲郎さん達による 参加者全員への、東京同窓会への、そして、速い故郷の現役高校生への応援エールが会場全体に響き渡りました。

万歳三唱の音頭をとったのは、昭和三十八年卒業の大古殿巖さん、小原東洋明さん、堂園俊秋さん。最後に、峯苦稔三副会長の閉会の辞で懇親会は盛会のうちに終了しました。



第三十四回 福岡同窓会総会・懇親会



福岡同窓会は、令和七年十月十八日に「ソラリア西鉄ホテル福岡」で開催され、本部同窓会から高田政雄同窓会長、新原誠副会長、南さつま地区神戈陵会から中馬悟事務局長、川辺高校から伊地知健三校長の四名が参加しました。

参加者数は、ゲストや鹿児島、大阪、広島、大分、長崎など県外からの出席者（昭和四十九年卒有志二十一名）を含め五十名で、午前十一時から本田正郎さんの司会により始まりました。開会に先立ち、川元満郎さんによつて詩（杜甫の「曲江」）が吟じられ、上野修一副会長が開会のことばを述べられ、佐多竹良会長が挨拶されました。

令和七年は創立百二十五周年記念特別企画として、桂竹丸師匠（鹿屋市出身）による講演落語が催されました。まずは鹿児島のカスツと笑える小唄がいくつか披露された後、第二次大戦中の地元知覧を舞台に、鳥濱トメさんが経営する富屋食堂での鳥濱トメさんと特攻隊員との交流を描いた演目「ホテルの母」が披露されました。前半の明る

く楽しい雰囲気から打って変わり、トメさんと若き特攻隊員との温かな交流を情緒豊かに表現しながら、戦争の物悲しさを感じさせる語り口は参加者の心に深く響き、参加者一同、命の大切さ、平和の大切さを感じられる貴重な時間を過ごしました。その後、再び佐多会長が挨拶され、亡師亡友への黙祷をし、四名の来賓紹介があり、高田同窓会長、伊地知校長、中馬事務局長、新原副会長からの挨拶へと続きました。



高田同窓会長から、同窓会の活動状況等のご報告がありました。伊地知校長は、川辺高校の現在の生徒の様子や今後の受験者数など話されました。中馬事務局長からは南さつま地区神戈陵会の活動状況などの挨拶がありました。その後、校歌斉唱に移り旧校歌と新校歌を全員で爽やかに歌い、川元満郎さんの乾杯で本格的に懇親会が始まりました。



歓談がしばらく続き、福岡同窓会にて恒例の「あいやらこいやらの近況報告等」になりました。今回は参加者が多数に及んだため卒業年ごとにさくさくと近況や思いを話し、二回目の校歌斉唱、南谷洋至事務局長の音頭による万歳三唱となり、第三十四回福岡同窓会は、終始活気に溢れて終わりました。

令和七年度 川辺高校本部同窓会総会・懇親会



本年度本部同窓会総会は、令和七年八月九日（土）午後六時から、川辺町の「宴会おかの」において開催されました。総会は本部同窓会事務局の是枝先生の進行の下、高田政雄会長の挨拶で始まり、続いて議事の進行役として、新原さんが選出され、新原さんの進行の下、

総会はスムーズに進みました。会の中では高田会長から「川辺高校同窓会賛助金」のご協力についてお願いがありました。最後に、児玉晃一現PTA会長が、夏休み期間中の八月二十四日（日）実施のPTA主催校内美化奉仕作業への参加協力を同窓会員に呼びかけました。



総会終了後は懇親会へと移りました。今辻錦二さんによる代表幹事挨拶で開会し、伊地知健三校長の挨拶へと続きました。乾杯後は、おいしい料理に舌鼓を打ち、ビールや焼酎を酌み交わしながら、なぎなた部のインターハイ団体三位をはじめとする在校生の活躍や、色褪せることのない母校での懐かしい思い出話に大いに花が咲きました。

令和七年度 南九州市職員等神戈陵会

副会長 瀬戸口 裕 一
(平成二年卒)

南九州市職員のうち川辺高等学校卒業生で構成する南九州市職員等神戈陵会の親睦会を令和七年十一月十四日に「宴会オカノ」で開催し、約二十五名が参加しました。

当日は、川辺高校から高田同窓会長と伊地知校長先生にも参加していただきました。御両名からは、川辺高校の現状や川辺高校生の学業及び部活動等での活動や活躍状況について熱く語っていただき、参加者も自分の子どものことのように誇らしく感じていました。また、県外の各地域の同窓会の活動につ

楽しい時間が過ぎるのは早く、まだまだ呑み足りない、話し足りない思いを抱えながらも、最後は校歌を声高らかに歌い上げて閉会となりました。また、当日は本校卒業生で美術部だった福原彩さんがデザインして作成された「川辺高校応援金」箱に多くの募金が寄せられました。ありがとうございます。



てもお話しいただき、それぞれの活躍を心強く思ったところでした。

令和七年度 南さつま地区神戈陵会

野中 康 博
(昭和六十年三月卒)

また、南九州市職員等神戈陵会会員で今年度六十歳を迎える方々に、これまで地域の発展に貢献していただいたことに感謝の意を込めて記念品を贈呈しました。

懇親の場では、川辺高校の将来について語り合い、またそれ

それが川辺高校生だったところを思い出しながら、大いに盛り上がりました。

これからも南九州市職員等神戈陵会では、川辺高校生の活躍を期待し、川辺高校発展のためにいろいろな形で協力していきたいと考えています。

令和七年七月十一日、南さつま地区神戈陵会を開催致しました。昨年度に続き南さつま市「村田旅館」での開催、昭和三十一年卒から平成十三年卒までの学年枠を超えた同窓生二十名が集結しました。同窓会から高田会長、学校から伊地知校長も出席され交流を深めました。コロナ騒動の影響もあり、県内においても同窓会が開催されない地区が多いと聞きますが、南さつま地区は今後も若い年代にも呼びかけをして継続するように努めて参ります。若い年代の方、地区外の方、大歓迎です！南さつま地区同窓会へ全員集合！



南さつま地区神戈陵会 集合写真



会場の村田旅館は大正13年から続く老舗旅館。南さつま地区同窓会の拠点！



総会風景



会場の村田旅館

昭和四十八年卒業 古希同窓会の開催



令和八年一月二十三日、鹿児島市のホテル・レクストン鹿児島で古希同窓会を開催しました。還暦同窓会から十年ぶりの開催となりましたが参加者は四十八名でした。集合写真を撮影後、五反田直一さんの司会で祝賀会に入り物故者への黙祷に続き、新原誠実行委員長の挨拶、高田政雄同窓会長の高校の現況報告の後森蘭悦子さんによる乾杯の音頭で懇親会がスタートしました。

十年ぶりに参加した人や卒業後初めて参加した人など、久しぶりの再会で話が花が咲き、あつという間の二時間でした。スケジュールでは近況報告の時間を設けてありましたが誰も希望者が無くお互いの交流が最も楽しかったようです。その後校歌を全員で懐かしく歌い山本朗氏の万歳三唱で締めくくりました。また、今回の古希同窓会に当り、在校生への教育支援のため

寄付を募集したところ五十八名から二十万円が集まりましたので二月十二日に四名が参加し校長室で贈呈式を行いました。



学校関係の行事から

(令和七年四月〜十二月)



令和七年度のスタート

四月八日(火)、第八十回入学式が本校体育館で挙行され、新入生五十七名を迎え、全校生徒百二十名で令和七年度がスタートしました。今年も在校生(美術部員)が、歓迎の心を込めて黒板アートを作成してくれました。



第二十六回 神戈陵塾

令和七年六月五日(木)、(神戈陵祭文化祭の前々日)今年度は、本校体育館で実施しました。



①遠見 貴弘氏 (皇室警察)
演劇：『皇室警察とは』



②佐多 克友氏 (菊野病院理学療法士)
演劇：『One Team ~医療従事者の面白さを伝えなきゃ♪』

神戈陵祭文化祭

令和七年六月七日(土)、今年度もmakukawaホール及び周辺を会場としました。全クラス舞台参加とした内容、地域とつながりを大切に、キッチンカーやマルシェも実施しました。



中学生1日体験入学

令和7年8月25日(月)、生徒96名、保護者49名が参加。体育館で全体会の後、スタンプラリー、体験学習、部活動体験をしました。

今年も全体会は生徒会が運営し、いろいろな場面で生徒たち主体的に動いてくれました。



第78回 神戈陵祭体育祭

令和7年9月6日(土)、爽やかな秋空の下、生徒の笑顔あふれる体育祭が開催されました。



33 km 遠 行

令和7年10月24日(金)、曇り空の中、33km遠行が開催されました。雨も心配されましたが、最後に小雨程度で終わりました。生徒たちは辺高から吹上浜海浜公園までの往復コースを、足にマメを作りながらも元気よくほとんどの生徒が完走歩を果たしました。



事務局だより

◎令和七年度 神戈陵教育振興会 奨学生決定

令和七年度「神戈陵教育振興会奨学生」として、スポーツ振興面で、なぎなた部と三年生の鶴田桃子さん(川辺中)に決定しました。

令和八年一月二十日(火)に本校校長室で認定書及び奨学金を交付しました。



◎令和七年度神戈陵教育振興会 奨学生(三年生対象)について

例年七月に、奨学生になった生徒への授与式を行っておりましたが、今回は事前の審議の結果、授与対象者なしということになりましたので、授与式は行いませんでした。

◎住所等の変更がありましたら二次元コードへ



令和7年度川辺高等学校同窓会予算書

(期間：令和7年7月1日～令和8年6月30日)

収入の部

(単位：円)

| 費 目 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 増 減 | 備 考 |
|-------|-----------|-----------|-----------|------------------|
| 入 会 金 | 80,000 | 80,000 | 0 | 1,000円×80人 (新入生) |
| 会 費 | 60,000 | 118,000 | △ 58,000 | 2,000円×59人 (卒業生) |
| 賛 助 金 | 500,000 | 500,000 | 0 | 賛助金収入 |
| 総 会 費 | 250,000 | 250,000 | 0 | 同窓会総会参加費 |
| 繰 入 金 | 300,000 | 1,000,000 | △ 700,000 | 積立基金より |
| 繰 越 金 | 1,157,062 | 441,942 | 715,120 | R6からの繰越金 |
| 雑 収 入 | 22,938 | 20,058 | 2,880 | 利息など |
| 合 計 | 2,370,000 | 2,410,000 | △ 40,000 | |

支出の部

(単位：円)

| 費 目 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 増 減 | 備 考 |
|-------|-----------|-----------|-----------|---|
| 総 会 費 | 250,000 | 250,000 | 0 | 同窓会総会費他 |
| 会 議 費 | 30,000 | 30,000 | 0 | 役員会など会議費 |
| 需 用 費 | 350,000 | 350,000 | 0 | 会報印刷代他 |
| 通 信 費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 切手、はがき代(役員会・賛助金案内) |
| 広告宣伝費 | 30,000 | 30,000 | 0 | チラシ広告料 |
| 人 件 費 | 0 | 80,000 | △ 80,000 | |
| 慶 弔 費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 転退職員記念品代他 |
| 旅 費 | 330,000 | 330,000 | 0 | 東京、大阪、福岡同窓会などへの旅費 |
| 負 担 金 | 210,000 | 210,000 | 0 | 各地区同窓会等への負担金他 |
| 高校振興費 | 500,000 | 700,000 | △ 200,000 | 活性化対策事業補助 200,000円 文化祭補助 50,000円 その他高校の振興に関する費用 |
| 雑 費 | 80,000 | 40,000 | 40,000 | 各地同窓会への土産代他 |
| 予 備 費 | 290,000 | 90,000 | 200,000 | |
| 合 計 | 2,370,000 | 2,410,000 | △ 40,000 | |

| 各地区同窓会連絡先 | | 事務局 鹿児島県立川辺高等学校 〒897-0221 鹿児島県南九州市川辺町田部田 4150 | | | TEL 0993-56-1151 FAX 0993-56-1152 |
|---------------|-----------|--|-------|--|--------------------------------------|
| 川 辺 同 窓 会 | 会 長 | 高 田 政 雄 | 高 2 5 | | |
| | 副 会 長 | 松 久 保 正 | 高 2 4 | | |
| | 副 会 長 | 新 原 誠 | 高 2 5 | | |
| | 副 会 長 | 鮫 島 宏 | 高 2 6 | | |
| | 副 会 長 | 久 松 松 充 | 高 2 9 | | |
| | 副 会 長 | 木 田 統 一 | 高 2 9 | | |
| | 副 会 長 | 宇 都 和 一 | 高 3 0 | | |
| | 副 会 長 | 菌 田 一 也 | 高 3 2 | | |
| | 副 会 長 | 上 之 園 修 | 高 3 3 | | |
| | 副 会 長 | 東 成 功 | 高 3 4 | | |
| | 副 会 長 | 宇 都 寿 彦 | 高 3 6 | | |
| | 副 会 長 | 野 中 康 博 | 高 3 7 | | |
| | 副 会 長 | 岡 野 和 典 | 高 3 8 | | |
| | 副 会 長 | 大 倉 野 格 | 高 4 0 | | |
| | 副 会 長 | 内 園 強 一 | 高 4 2 | | |
| | 副 会 長 | 児 玉 晃 一 | 高 4 2 | | |
| 副 会 長 | 山 口 浩 平 | 高 4 6 | | | |
| 会 計 事 務 局 長 | 上 妻 み づ 子 | 高 3 3 | | | |
| 監 事 | 宮 原 中 正 | 高 1 4 | | | |
| 監 事 | 野 中 行 夫 | 高 1 8 | | | |
| 監 事 | 土 喰 政 美 | 高 2 0 | | | |
| 顧 問 | 前 野 政 剛 | 高 7 | | | |
| 顧 問 | 森 田 枝 利 | 高 2 0 | | | |
| 事 務 局 長 | 是 枝 利 江 | | | | |
| 東 京 同 窓 会 | 会 長 | 森 山 昭 利 | 高 1 8 | | |
| | 副 会 長 | 峯 山 苦 稔 | 高 1 8 | | |
| | 幹 事 長 | 山 本 村 哲 也 | 高 2 5 | | |
| | 幹 事 長 | 内 林 昭 子 | 高 2 7 | | |
| 東 海 同 窓 会 | 会 長 | 二 反 田 統 男 | 高 7 | | |
| | 副 会 長 | 日 置 内 宏 幹 | 高 1 0 | | |
| | 幹 事 長 | 山 内 幹 彦 | 高 2 2 | | |
| 関 西 同 窓 会 | 会 長 | 岩 屋 口 大 造 | 高 1 6 | | |
| | 副 会 長 | 梅 橋 弘 芳 | 高 6 | | |
| | 副 会 長 | 河 津 由 美 子 | 高 1 5 | | |
| 福 岡 同 窓 会 | 会 長 | 佐 多 竹 良 | 高 2 0 | | |
| | 副 会 長 | 堀 内 勉 一 | 高 1 9 | | |
| | 副 会 長 | 上 野 修 一 | 高 2 0 | | |
| 熊 本 同 窓 会 | 会 長 | 佐 南 谷 洋 至 | 高 2 6 | | |
| | 幹 事 長 | 梅 橋 豊 藏 | 高 1 5 | | |
| | 幹 事 長 | 丸 野 真 一 | 高 3 4 | | |
| 宮 崎 同 窓 会 | 会 長 | 芝 原 正 文 | 高 1 9 | | |
| | 副 会 長 | 泊 直 十 郎 | 高 1 4 | | |
| | 副 会 長 | 和 田 政 吉 | 高 2 0 | | |
| 鹿 児 島 同 窓 会 | 幹 事 長 | 松 山 輝 雄 | 高 1 1 | | |
| | 会 長 | 寺 師 慶 志 | 高 1 8 | | |
| | 事 務 局 長 | 上 野 寿 郎 | 高 2 7 | | |
| 南 薩 地 区 同 窓 会 | 副 会 長 | 中 尾 良 嗣 | 高 2 9 | | |
| | 幹 事 長 | 西 浩 二 | 高 2 5 | | |
| | 事 務 局 長 | 中 馬 悟 | 高 3 0 | | |
| 知 覧 地 区 同 窓 会 | 会 長 | 松 久 保 正 毅 | 高 2 4 | | |
| | 副 会 長 | 市 坪 政 昭 | 高 1 8 | | |
| 枕 崎 同 窓 会 | 会 長 | 吉 見 昭 光 | 高 1 | | |
| | 副 会 長 | 森 戸 床 安 | 高 2 4 | | |
| | 幹 事 長 | 戸 床 安 孝 | 高 1 0 | | |